

## 令和元年度第2回松戸市地域福祉計画推進委員会議事録

日 時 令和2年1月29日（水）午後2時～3時

場 所 松戸市役所 7階 大会議室

出席者	東 仲宣	委員長	文入 加代子	副委員長
	吉田 留美子	委員	大野 地平	委員
	平川 茂光	委員	西野 高嶺	委員
	安蒜 正己	委員	今成 貴聖	委員
	永田 恭子	委員	島根 明	委員
	角口 早苗	委員	高橋 清	委員
	鈴木 公一	委員	小出 明弘	委員
	久居 麻紀子	委員	石田 尚美	委員
	鶴岡 佐奈江	委員	鎌田 啓作	委員
	斉藤 幸男	委員	森 令子	委員

欠席者 大橋 純一 委員  
和田 勲 委員

傍聴者 1名

配布資料 <別紙1>を参照

## ◇開 会

### 司 会

本日は、お忙しい中お集まりいただき、有難うございます。定刻となりましたので、始めさせていただきます。

まず初めに、健康福祉部長よりご挨拶を申し上げます。

## ◇健康福祉部長あいさつ

### 司 会

続きまして、東委員長のご挨拶をいただきたいと思います。東委員長お願いいたします。

## ◇東委員長あいさつ

## ◇会議成立要件等

### 司 会

次に、本委員会の成立要件についてご報告申し上げます。

本日は、大橋純一委員、和田勲委員より欠席の御連絡を頂戴しております。

なお、本日の委員会の出席は22名中20名で過半数を超えておりますので、条例第7条2項の規定により、委員会としての成立要件を満たしております。

それでは、これ以降の議事進行については、『条例第7条第1項』の規定により、東委員長にお願いしたいと思います。では、東委員長よろしくをお願いいたします。

### 委員長

それではよろしくをお願いいたします。

本日の傍聴についてですが、〇〇様から傍聴のご希望がありましたので、許可したいと思いますがよろしいでしょうか。

### 委 員

異議なし

## ◇議 事

### 委員長

傍聴者の入室をお願いします。それでは、議事に入りたいと思います。

議事（1）「第3次松戸市地域福祉計画に関連する地域団体の取り組みの把握結果

について」事務局から説明をお願いします。

## **事務局**

資料1「第3次松戸市地域福祉計画に関連する地域団体の取り組みの把握結果」について、説明いたします。

まず、本アンケートにご協力をいただきました関係団体の皆様におかれましては、お忙しいところご提出をいただきまして、誠にありがとうございました。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。後ほどご説明いたしますが、皆様のご協力によりまして、懸案でありましたアンケートの回収率を向上させることができましたことも併せてご報告いたします。では、表紙をめくっていただきまして、目次をご覧ください。

今回の報告書は、大きく4つの章で構成いたしました。

前回との改善点といたしましては、平成27年度との比較も含めると、今回はデータの量がかなり増加いたしましたので、第2章に「調査結果の考察」という章を新たに設けまして、この第2章を見るだけでも調査結果がわかるように工夫いたしました。

それでは2ページ、第1章の「調査の概要」から説明させていただきます。

まず1の「目的」につきましては前回の委員会でもお伝えしておりますとおり、地域における各種団体がどのような活動を日々行っているのか、また、そこでどのような課題が生じているのかを把握いたしまして、今後の計画策定に生かすものでございます。

次に2の「方法」についてはご覧のとおりとなっております。

3の「回収結果」でございますが、配布数655件に対しまして、回収数は448件、回収率は68.4%となっております。これは、前回の回収率に比べまして、16.7%向上させることができました。この主な要因といたしましては、以前、推進委員会にていただいたご意見を基に松戸市ホームページにアンケート調査票を掲載いたしましたので、作成の利便性が高まったことが挙げられるかと考えております。

なお、回収率の低かった団体様に関しましては、個別に提出のお願いができなかったことも一因かと存じますので、今回はこの点を改善しまして、さらに回収率の向上に努めたいと思います。

次に4の「留意事項」でございますが、記載しておりますとおり、記入・未記入や複数回答などの要因によりまして、回答数が100%に満たない、若しくは100%を超えるケースもございますので、あくまで傾向を知るひとつの資料としてご覧いただきたいと思っております。

それでは、4ページの第2章「調査結果の考察」の内容について説明させていただきます。本日は時間も限られておりますので、第3章の集計データが含まれております「調査結果」につきましては後ほどご確認をお願いいたします。

まず(1)のボランティア活動の有無につきましては、前回調査と比べまして、ボ

ランティア活動の取り組み割合が、前回平成27年度調査の46.0%から15.2%増加しまして、全体で61.2%の団体から活動を行っている旨の回答がございました。これは、各種団体の皆様の地道な活動の成果もさることながら、回収率の向上も少なからず影響している可能性があるため、引き続き活動の推進に努めてまいりたいと思います。

次に(2)のボランティア活動をしていない場合の理由についてですが、「活動に取り組む人手がない」が約65%となっており、従事者の高齢化や後継者不足が背景にあるものと思われます。

ただ、(3)にもありますとおり、現在活動していなくとも、約68%の団体がボランティア活動の必要性を感じているとのことで、各団体の抱える課題を解決できれば、さらにボランティア活動が活発化する可能性があることが分かりました。

(4)の行政に期待する役割についてですが、各団体からの意見に共通するものとして、①人手不足の解消、②きっかけとなる情報の発信、活動要領の周知啓発、③活動資金・拠点の確保が挙げられておりました。

次に2の「取り組んでいる分野」の(1)集計結果に移ります。前回と同様、「声かけ・見守り」「防災」「防犯」に関する分野が多く取り組まれていることがわかりました。

(2)の取り組みの内容について具体的にお聞きしましたところ、先ほどの3つの分野に加えて、「健康・医療」「子育て支援」についても多く意見が寄せられたところ です。

3「対象者」としましても、前回同様、高齢者や子どもに関する取り組みが多くございました。

次のページに移ります。4の「開催数」についてですが、これも前回同様、年間で20回未満の取り組みが多く、月ベースでは1回前後の回数となっておりました。

5の利用者数・会員数ですが、前回に比べまして100人～199人、1,000人～の項目が増えておりました、より活動の規模が大きくなっていることがわかりました。

6の従事者数ですが、ほとんどの団体で特に1～9名の回答が突出しておりました、言われておりますとおり、従事者不足を裏付けるものとなっております。

7の活動経費(町会・自治会のみ)についてですが、これも前回同様、年間でボランティア活動に投じている資金としては10万円未満であることがわかりました。

8の財源としましても「会費」、「行政からの補助金」がほとんどとなっております。

9の活動メリットについてですが、活動によりまして分野ごとの取り組みの目標を達成していることはもちろんのこと、各分野に共通するメリットとして、①地域での交流を深められ、信頼関係の構築に役立っている ②参加者のみならず、支援者も様々な情報に触れられ、自身の向上につながっている ③安否確認・相談の場となっているなどが挙げられておりました。このことから、分野を問わずボランティア活動などを行うことで、地域内での交流を深められ、そのことが参加者同士の助け合い、従事者の資質向上につながっているものと思われます。

10の「活動当初と比較して変化したこと」につきましては、先ほどの活動のメリ

ットと重複する部分もございますが、一方で「ボランティアの高齢化、従事者不足」、「参加者が固定化している」など経年変化により活動が困難になっている状況、または顔ぶれが変わらないなどという問題点も見受けられます。

6 ページに移ります。

11の周知方法についてですが、前回同様、「町会・自治会の回覧版」「声かけ」が多くなっておりまして、ホームページが最も低く、活用されていないことがわかりました。

今後の課題としては若手を取り込んでいく必要がありますので、ホームページなどのメディアの活用も必要であると思われます。

12の問題点についても、「従事者の高齢化・不足」が前回同様上位に挙げられております。同様に13の「取り組む上で必要と感ずること」も組織づくりや広報活動といったことが上位に挙げられております。

14の「ボランティア活動をしている団体が行政に期待する支援や役割」でございますが、①団体の活動内容を周知するための広報活動 ②活動を維持・継続するための補助金の充実 ③活動の場となる拠点の確保 ④具体的な活動レベルでの行政と市民の協働が挙げられております。

15の「今後の方向性」ではほとんどの団体が維持または拡大するなどして活動を継続することがわかりました。

16の「今後の取り組み内容」ですが、各団体とも活動内容の充実や回数の増加を目指す記述がみられましたが、一方で、「従事者不足」「多忙により活動の充実は困難」「現状を維持する」といった内容もございました。

17の「次期地域福祉計画に反映すべき事項」としましては、これまで挙げられてきましたとおり、①ボランティア活動の従事者確保②集会所等の活動拠点の整備③活動費の助成、補助などとなっております。

18の「地域福祉についての意見」についてですが、これまでに出された問題点などのほか、災害時における要支援者の避難誘導體制の強化や防災に詳しい人材育成の必要性などに関する意見がみられました。内容といたしましては、地震や風水害など災害が頻発する中で、有事に備えて日ごろから要支援者を交えた実践的な訓練やマニュアルの作成などが求められているものです。

なお、参考資料ではございますが、このたび、地域福祉課と危機管理課が連携いたしまして、避難行動要支援者名簿の活用方法や避難支援をする際に必要な情報・一例をまとめた「避難行動要支援者名簿活用の手引き」を作成いたしましたので、お手元に配布いたしました。ぜひご一読いただくと幸いに存じます。

次の7ページに移ります。

19の「総括」でございますが、ボランティア活動を行っている団体、行っていない団体のいずれも、高齢化による従事者・後継者不足や活動資金・活動場所・周知啓発活動の不足等を問題視しており、それらに対する行政からの支援を必要としている状況であることがわかりました。

一方で、今後の地域福祉計画は、厚生労働省より示されている地域共生社会の実現を目指した地域福祉の推進計画との基本的な考え方を基に取り組みを進めることが求められており、その第一歩として地域住民や多様な主体が「我が事」として参画していく必要があると思います。

今後は、従来どおり高齢者を主体としたボランティア活動を推進していくのではなく、そのような活動に若年層を含めた現役世代を取り込み、地域福祉の担い手の育成と地域づくりを進めていくこと、さらに活動資金や活動場所の確保といった基盤整備が重要になると考えられます。

本調査結果とこれからの地域福祉計画の果たすべき役割を踏まえ、次期地域福祉計画の策定へとつなげてまいりたいと思います。

最後に、取りまとめを行いました担当者として、印象に残った自由意見を2点ご紹介したいと思います。67ページをご覧ください。

このページは、地域福祉についての自由意見の欄となっております。その中の下から3行目にありますご意見をまずはご紹介いたします。

「地域福祉とは、地域住民の幸せ度を底上げするための様々な取り組みのこと」と考えられ、自分の力で幸せな状態になることが難しい方々に対して、地域社会としてその支援ができるような仕組みを作っていく必要があります。地域福祉計画は、その大きな指標となるものであり、計画策定時においては、幸せな状態の地域のイメージを共有することが大切であると考えます」

というご意見がございました。これは、平成30年4月に施行された改正社会福祉法の趣旨にも通じるところでございますが、地域福祉計画は、福祉の各分野における共通事項を定め、上位計画として位置づけられるとなっておりますので、今後、地域共生社会を実現していく上で、市の福祉に関する各種計画の横串となり、そして指標となることで、しっかりとその道筋を示していけるよう研究してまいりたいと思います。

次にその下の欄にありますコメントをご紹介いたします。

「地域の施策は、1年後を想定するのか、5年後10年後、次の世代を想定するのかによって、かなり違ったものになってくる。全市並びに各施策、各地域とも、どの時点を念頭に議論するのか、常に確認しながら進める必要があると思う。」というものです。

地域福祉計画の計画期間は5年間となっておりますので、このご意見のとおり、行政計画としていつの時点で何を達成していくのかを想定し、目標を定め、目標に向かうに当たっては、皆様が日々活動されている地域や地域を構成する一人一人のご協力をいただくことが必要となりますので、今後も引き続き各課・各団体・市民の皆様と常に共通認識を持つようにし、次期計画の策定作業を進めてまいりたいと考えております。

以上で説明とさせていただきます。

## 委員長

ただいま、事務局より説明がありました。どなたかご意見ございますか。

## 委員

総括の中に若年層を含めた現役世代を取り込んで地域福祉の担い手を育成すると思いますが、私もボランティアを12年くらいやっています。なかなか後継者というか、若い人が入っても途中で辞めてしまうことがあるのですが、言っていることは大変立派で結構なことなのですが、どのような考えで取り組むつもりでしょうか。説明をお伺いします。

## 事務局

若年層の取り込みという観点ですが、今回アンケートを頂いている中で後継者がいないとか従事者が少なくなっているというお声を多数聞いております。

まだ具体的にどうするという事は決まっていなくていいのですが、今後、第4次の地域福祉計画を策定するときに市民の皆様や、関係課と意見調整を図りながら少しでも解消できるように進めてまいりたいと思っております。

## 委員

私の経験からひとつ提案があるのですが、20代～30代くらいの若い女性が入ってきたりしても、若い男性がいないと辞めていってしまうというケースがあります。ですので、異性との婚活の場、というような捉え方もないこともないわけです。

ですからボランティアを募集するにあたって男女交流の場が設けられるようなことをしていただくと少しは違うのではないかと思います。いかがでしょうか。

## 事務局

ご意見ありがとうございます。是非そういった観点も踏まえながら次の計画に生かしてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

## 委員

質問を交えてお話しさせていただきます。まず1つ目は一番気になった周知方法の「ホームページ」が最も低いということがあります。

今回の調査でホームページが一番低くなるというのはやはり町会・自治会がアンケートの対象者となっていますので、ホームページを必要とせず、回覧板の方が簡単だということだと思いますが、そもそもホームページという考えから脱却しないと若手、特に学生はボランティアの情報に遭遇しません。

今学生はグーグルであるとかヤフーとかで検索はしません。全部ツイッターとかインスタグラムで検索をした上でホームページに飛びます。なので「ホームページ等」というよりは「SNSの活用」、そしてこの事前資料を見てツイッターとかで検索した

ところ、松戸市のボランティア情報というのは大変少ない。「松戸市」「ボランティア」で検索しても中々ヒットしないし参加者が減ってきましたという報告で終わる。もし周知徹底をするのであればその点の活用を考慮に入れておくということと、それに対する支援が必要であるということがまず1点として挙げられます。

そしていわゆる若年層、特に学生については、ボランティアを受け入れる側が大学と交渉するというよりは、行政なり社会福祉協議会なりが間に入っていたいただければ交渉がし易いということになります。

そもそも、若手が入れないというのは時間帯のマッチングの問題が一番の大きくあるのかなと思います。例えば昼間にボランティアを募集しても昼間はずっと勉強なのです。昔のように空きコマがあるという状況はほとんどなくなっている。そういう状況なのでなかなかできないというところになってくるので、その点も踏まえてできることは何かとなると、授業時間を使ってそれを単位として認めてくれるという話しかなくなってくる。

その点は学校、或いは高校も含めてもいいのかもしれませんが、そういったところも含めて、学校・地域・行政というものが一体となってボランティアをどう捉えるかが必要かなと思いますので、その点は今後の展開に入れていただければと思います。是非ご検討お願いします。

#### **事務局**

ご意見ありがとうございました。ホームページの活用という観点につきましては、ツイッターやインスタグラムといった SNS も含めて考えてまいりたいと思います。

また、学生さんをどう取り込んでいくか、しっかりと検討していきたいと思います。

#### **委員長**

若い人の取り込みということで他の委員の方からもご意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

#### **委員**

今お話がありましたけれども、今は何でもツイッターなどでの拡散が凄いので松戸市でもその方向で是非それを取り入れていかなければいけないなと思います。

それと同時に私どものような高齢者もたくさんいるわけですので、どちらも置いてきぼりにならないような方法でお願いしたいと思います。でも本当にこのインスタグラム等の SNS 情報、これは絶対有用だと思います。これが責任感の無い自由な発想の情報展開というのは非常に困りますが、やはり行政が絡んだものと言うのは非常に信頼ができるわけですので、その方向性でいければいいと思いました。

#### **委員**

ボランティアという観念で若年層というところだと、子育て家庭のお父さん・お母

さんというところも考えられると思うのですが、今の状況だとその世代はすごく忙しくて心に余裕がないという感じがいたします。

「ボランティアなどで地域に出て行くのは大事なんだ」というのを学生のときから、できれば小学校・中学校のときからしっかりと教育に含め、忙しくても地域と関わって行くのだという仕組みづくりができればいいのかなと思いました。

#### **委員長**

他にもこのアンケートを見て是非発言しておきたいということがありましたらお願いします。全体を読んでいただいている感想でも良いのですがいかがですか。

#### **委員**

このアンケートは現に活動している人が対象だと思います。もう既に辞めた人、事情があって続けられなくなった人、そういう声は拾われていないわけですよ。

#### **事務局**

必ずしも現に活動をしている団体に限らず、活動していない団体からもお声を頂戴していただき、その活動していない理由、背景などもお聞きしたところでございます。

#### **委員**

私が聞いていることは、ボランティア活動をやっていたけど辞めてしまった人の声についてです。

辞めていった人の声も拾って行って、それが本当に生かせるかどうかは分かりませんが、辞めていった理由が分かればそれを変えていくということも必要ではないかと思えます。

#### **委員長**

貴重なご意見ありがとうございました。

松戸市ボランティア連絡協議会としてはいかがでしょうか。

#### **委員**

読ませていただいて気になったところですが、回収結果の中で、市民活動登録団体の回収率が92団体のうち27団体27.8%という非常に低い状況となっていることです。

他の団体は70%とか80%とか回収率が高いのですが、なぜ市民活動登録団体のみがこんなに低い回収率なのかお聞きしたいです。

#### **事務局**

市民活動登録団体に関しましては、担当課を介しまして一斉のメールの送信や、FAX

の送信等をお願いをした次第でございます。

なお、回答がなかった団体さんに関しましては、例えば町会自治会さん等には一件ずつお電話を差し上げてご提出をお願いしたところではあるのですが、こちらの市民活動登録団体につきましては個別の連絡先は開示できないということでそれが叶わなかったという点で回収率が低くなったと考えております。

#### **委員**

私どもボランティア連絡協議会は、現在 16 団体あるのですが 3~4 年前は 38 団体だったのです。なぜこのように減少しているかというところこのアンケートでも分かるっており、やはり高齢化そして新しく若い人が入ってこないということだと思っております。

今後は、皆様が先ほどお話ししたようないろいろな取り組みをしていきたいと思っております。

#### **委員長**

私もよろしいでしょうか。

割合は少ないのですが、精神疾患に関する記述も 2~3 箇所あるのです。その部分はやはり取り組みしにくい部分ではあるのですが、取り組んでいかないといけない部分でもあるので、次年度以降、是非取り込んでいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

他にご意見ございますか。

#### **委員**

これを受けてボランティアの確保というのは大前提なのですが、いわゆるボランティア組織への支援というところも必要で、それに対する支援というのもひとつ取り組みの中に入れておいて欲しいと思っております。

そこがしっかりしていれば誰か新しい人が入ってきたときに継続的に活動を展開できるということになるので検討していただければと思っております。

#### **委員長**

次に移ります。議事（2）「地域福祉サロンの結果報告について」事務局から説明をお願いします。

#### **事務局**

それでは、お手元に配布いたしました、資料 2 「地域福祉サロンの結果報告について」の 1 ページをご覧ください。

本地域福祉サロンでございますが、平成 29 年度から地域福祉計画の策定に資する目的で開始をいたしまして 3 年目となっております。今年度は、10 月 29 日火曜日の午前中に、松戸市社会福祉協議会第 1・第 2 ボランティア室において開催いたし

ました。

次第はご覧のとおりとなっております。今回は松戸市社会福祉協議会の久保補佐にお願いをいたしまして、テーマを「見つけよう！ 広げよう！ 地域を支えるボランティア活動」と題しましてカードを使ったグループワークを行って、ボランティア活動を通して自分にできることは何か、身近な課題を解決するにはどうしたらよいか等、様々な意見交換を図ることができました。

次のページをご覧ください。補足ではございますが、このテーマの選定方法について説明させていただきます。現在、松戸市地域福祉計画の4つある基本目標の2番目に「自立と参加の促進」という目標がございまして、その中の推進項目として「地域福祉推進のための担い手の育成」という取り組み課題がありますことから、今回、このテーマを設定いたしました。

そのため、テーマについては4つの基本目標の中で順に設定しまして、毎年異なる基本目標に沿ったサロンを開催いたしておりますことから、来年度の地域福祉サロンのテーマは基本目標3「支え合い共に生きるまちづくり」の取り組み課題から選定したいと考えております。

続いて3ページをご覧ください。サロン当日は、2グループに分かれまして、一般参加の方、聴覚障害をお持ちの方、民生委員、地域包括支援センターの職員、市職員等計23名の方にご参加いただき、グループディスカッションを行っていただきました。

4ページに移ります。ここからは、当日の写真を基に説明してまいりたいと思いません。

当初、ゲストの久保補佐に概要説明をいただきまして、設定としてグループのメンバーが近隣住民であること、60種類のお願いが書かれたカードをテーブルの上に広げ、1人3枚程度、日ごろから誰かに手伝ってもらいたいと感じているカードを選んでもらうことなどを説明いただきました。

5ページに移りまして、下の写真にありますように、多種多様なお願い事が書かれたカードを参加者に選んでいただきまして、自己紹介を含めて選んだカードの理由などを各参加者に発表をいただきました。カードの内容は多岐にわたっておりまして、通院・買い物の送迎、洗濯、ゴミ出しといった日常生活のお願いごとから、悩み相談、旅行時の付きそいなど、様々な種類がございます。

6ページにまいります。ここから、各自で選んだカードの内容や理由などを説明しまして、そのお願い事を引き受けてくれる方を募集する流れとなります。ここでは一例としまして、市の職員が「マッサージ・肩たたき」のカードを手に、引き受けてくれる方を探している場面です。結果として、かなり目上の方に引き受けていただくことになりまして、下の写真では恐縮しながらではありますがカードを渡している状況となっております。

7ページ・8ページでは模造紙に地域での困りごとを書いた付箋を貼り付け、グループ化するとともに、その解決策を記載したものとなっております。こちらは、先ほ

どのカードによるグループワークとは別に行ったものでございまして、実際に各参加者の地域における困りごとや地域活動をしていく上でのニーズなどを基に議論を行ったものでございます。

なお、8ページ下段にありますのは、より多様なご意見をいただくため、若年層の参加を目的といたしまして市内4大学にお声がけをいたしましたところ、当日ご参加をいただくことはできませんでしたが、千葉大学園芸学部様の学生サークルHGC(Human Green Coordinator)で訪問園芸活動と環境教育活動を軸に地域活動をしている団体様からご提供をいただいたものでございます。

次にアンケート結果について説明させていただきます。9ページをご覧ください。

まず1の「松戸市地域福祉計画の概要紹介について」ですが、サロンの開始に先立ちまして、計画の概要版を用いて口頭にて説明いたしました。よりわかりやすく説明ができるよう、次回はパワーポイントの活用も検討したいと思います。

2の「グループディスカッション及びグループ発表について」ですが、9割の方が「新しい考えに触れることができた」と回答されました。今後は、なるべく一般参加の募集に努めまして、さらに若い世代を取り込み、より多様な意見を吸い上げられるよう工夫したいと思います。

3のサロンの雰囲気についてですが、これは過去に参加経験のある方が多く、積極的に発言される方が多かったこと、また、カードが話題のきっかけとなり、交流を深められたことによるものと思われま。

4の全体的な時間配分については、若干、終了予定時刻を割り込みましたが、最後まで議論が盛り上がっていたことから、時間配分としては適切であったと思われま。

10ページ目、5の開催場所についてですが、ほぼ全員が「行き易い」と回答されましたが、今後、さらに参加者が出席しやすいよう、本庁での開催やその他松戸駅周辺での会場の確保等検討したいと思います。

6のその他意見ですが、ご覧のような意見が見受けられました。皆さん、このサロンを通して気づいたこと、得られたことがあったようでして、事務局といたしましても大変充実したイベントであったと考えております。

また、ここには記載していませんが、聴覚障害をお持ちの方から、「普段支えてもらっている自分でも皆さんの力になれるということがわかり、元気になりました。」というご発言もございました。

こうした発言を鑑みまして、このようなサロンや同様のグループワークを通じまして「福祉の受け手であり、同時に担い手である」という認識を深めることができれば、より住民による主体的な福祉課題の解決へとつながる良い機会になると思われま。

ただ一方で、グループワークだからこそ様々な要望に応えることができたけれども、実生活においては個人の時間を犠牲にしてボランティア活動をするのは難しいという意見もございました。

今後といたしましては、「地域共生社会」を実現していく上で、まずは地域住民一人一人の「我が事」としての参画意識を高めることが重要と考えておりますので、そ

のための対策を次期計画にどう表現していくか、検討してまいりたいと思います。

最後になりましたが、引き続き、各基本目標・取り組み課題に沿ったサロンの開催を継続することで、次期計画策定の参考にして参りたいと考えております。サロンへの参加者を募集する際は、委員の皆様にもご協力をいただくことがあろうかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で報告とさせていただきます。

#### **委員長**

それでは、ただいまの説明につきましてご質問ございましたら、お願いいたします。

#### **委員**

私も出席者の1人として意見を申し上げたい。ここにも書いてあるように参加者が福祉関係者の方が多かったので、非常に活発な意見が出ました。

ですが考えてみれば福祉関係者ですから活発な協力的な意見がでてきて当たり前ですね。むしろこういうテーマは地域のサロンや或いは地域の場を使ってやったほうがより良いのではという印象を持ちました。今後は一般の方を対象にされた方が効果あると思います。

#### **事務局**

ご意見ありがとうございます。今ご意見がありましたように今後は一般参加者を軸に開催していきたいと考えています。今回なかなかそこまで及ばなかったということで次回についてはなるべくそういった一般参加者の方々を多くしていけるように工夫して参ります。

#### **委員**

今のお話ですが、一般参加者を募集するには地域福祉サロンを開く場所、社会福祉協議会、上矢切までなかなか一般参加者は喜んでいくという感じはしないので、もし実効性を上げるということであればやはり松戸駅前ですとか、交通の便のいいところをなるべく選ぶというのもひとつ重要な点じゃないのかなとも思います。

#### **事務局**

ご意見ありがとうございます。次回開催の際はなるべく交通の便がいいところで開催したいと思います。

#### **委員**

私が申し上げたいのは、松戸市のどこかで集まるのではなくて、各地域でやるいきいきサロンとかを利用してやってはどうですかということです。

**委員長**

さっき説明の中で基本目標ごとにやるとおっしゃいましたが、その解釈でよろしいですか。それはつまり4回やるということによろしいですか。

**事務局**

毎年輪番で基本目標1~4を通してやっておりますので、その年ごとに変わっていくところがございます。

**委員長**

これは年1回ですか。

**事務局**

年に1回です。

**委員長**

この辺に関してはなにかございますか。今回は基本目標3をやったということですか。

**事務局**

今回は基本目標2です。その中の推進項目であります「地域福祉推進のための担い手の育成」というテーマに沿って行いました。

**委員長**

今度は基本目標3になると思いますが、テーマは決まっていますか。

**事務局**

基本目標3の中のどのテーマにするかということは未だ決めておりませんが、重点項目ないしは推進項目といったところから選定していきたいと思っております。

**委員**

それに直結するかどうか分かりませんが、やはり若い人も高齢者も含めた形でのサロンというのはいいと思うのですが、やはり参加しやすいというように感じられるPR方法を是非しっかり検討していただきたいと思っております。

やはり今まで福祉やボランティアに関わった人達は大体おおよその内容とかを推察できるわけです。それから自分の活動とかあるいは周りの活動というのも結構理解したうえでの参加になりますので、そうではなく一般の方々、それから今までそういう活動をなさらなかった方への参加を促すにはどうしたらいいかというのはかなりきめ細かく検討しないと難しいと思います。

それから先ほど事務局でもお答えしていましたが、やはりいろんな地域で行うということは適切だと思います。今回は社会福祉協議会の方の皆さんの言うところの不便だということというところで開催したところですが、今後に期待したいと思います。

### **委員長**

ありがとうございました。

冒頭に委員がおっしゃったように身内だけでやっているのではないかというご意見がございましたので、やはり本来参加しない人をどうやって集めてこのサロンに集約していくかというのはこのサロンを開催していく意味づけになっていくと思います。その部分をしっかり埋めておいた方がいいと思います。

それでは、ご意見などもないようですので次に移ります。「議題（3）今後の業務予定について」事務局からお願いします。

### **事務局**

それでは、お手元に配布いたしました資料3「今後の業務予定について」の裏面をご覧ください。

来年度は地域福祉計画の3年目となりますので、次の第4次地域福祉計画に向けた策定作業を開始して参りたいと思います。なお、当委員会については現状どおり年2回の開催を予定しております。

まず、7月の推進委員会におきましては、ご覧の4点を議題にする予定となっております。1点目、2点目の「行政の進捗状況調査報告」、「松戸市社会福祉協議会事業報告」につきましては、前回の委員会でも議題としておりまして、毎年実施しているものでございます。

3点目の「地域福祉計画に関連する各計画等の市民意識調査まとめ」に関しましては、健康福祉分野以外のまちづくりや男女共同参画などの行政計画と連携・方向性を併せていくため、各計画で行われている市民アンケート調査を参考にしまして、個人のレベルで市民の皆様が福祉についてどのように考えているか把握したいと思えます。

4点目の「第4次松戸市地域福祉計画（案）策定について」に関しましては、平成29年12月に厚生労働省から通知がありました、「地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進について」に基づきまして、今後は地域福祉計画により地域共生社会の実現が求められているところでございます。そこで、この「地域共生社会の実現」を全ての出発点といたしまして基本理念や基本目標、どれを重点項目、推進項目とするかを含めた取り組み課題に至るまですべて見直しの対象とさせていただきたいと思えます。

10月は、先ほどご報告いたしました地域福祉サロンを開催したしまして、参加者の皆様からご意見をいただければと存じます。

11月は、庁内連携会議を開催いたします。この会議は平成28年度に設置された

ものでございまして、庁内54の所属と情報共有や調整等を行い、地域福祉計画の策定・推進を図ってまいります。この場で、7月の推進委員会でご提案した内容と委員の皆様からのご意見などを報告させていただきまして、併せて今後の協力についても依頼いたしまして、次期計画策定のための庁内での体制づくりに努めてまいります。

最後に1月に行われます第2回の推進委員会となります。

1点目が「地域福祉サロンの開催報告」、2点目が「第4次松戸市地域福祉計画骨子(案)」のご提案です。

ここでは、計画の根本となる基本理念、基本目標、取り組み課題を網羅した体系図、それに関連する計画の目次、第1章の「計画の概要」を具体化いたしまして、お示ししたいと思います。

なお、これらに関しましては、庁内連携会議の後に意見照会をいたしまして、事前に内部で検討をしたのち、皆様にご提示いたします。また、委員会の都度、今後の業務予定をお示ししてまいります。

以上で説明とさせていただきます。

#### **委員長**

それでは、ただいまの説明につきましてご質問ございましたら、お願いいたします。ないようでしたら、私から質問をさせていただきたいと思います。

今みなさんのお手元にあります、避難行動要支援者名簿活用の手引きについてです。内容は分かるのですが、時間的なファクターが入っていないと思います。例えば、「夜中にこんなことできるわけがない」と捉えられかねないのでその部分をもう少し分かり易く書いた方がいいと思います。昼間ならばこれでいいのしょうけれども。それから市からの(災害情報)を出すとき、早めに出せばこういうように避難所にいけるけれどもそれが遅くなるとこのように対応できないということもありますので、こういうところの関係性をやはり分かり易くしておかないとなかなか活用できないのではないかと思います。ご検討いただければと思います。

#### **事務局**

ご意見ありがとうございます。こちらは令和元年11月に第1版として作成させていただきました。今頂いたご意見も含めて今後第2版、第3版と改定をしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。

#### **副委員長**

今回たくさん市民団体からご意見をいただきましたが、この中で事実とは違うということはありませんでしょうか。アンケートで頂いたものを全てこちらにあると思うのですが、その辺を少し確認しておきたいです。

というのは、例えば資料1の51ページの中に私自身が知らなかったということで済む話かもしれませんが、上からいくと①というところ、「見守り活動で一番困って

いること」というなかで、地域福祉課と高齢者支援課は意見が違う事が書いてあって、これでは現場が困ってしまうというような表現がありますけれども、これについてどちらが正しいかというのは私は分りませんので、そういう意味でこれも質問の一つですが、このアンケートの中に事実と違う部分がありましたよ、とかあったというような指摘はなかったのでしょうか。私も市民団体に結構入っていますけれども、市民団体として正確に行政のあり方ですとか、そういうものを把握した上で活動しているかどうかというように言われると自信が無いという部分もありますので、質問をさせていただきました。

#### **事務局**

自由意見で頂いた内容を一つ一つ精査してはおりませんが、頂いたご意見の中でもしその団体に対して個別にご案内することができたら都度毎に対応していきたいと思っております。詳細な事実確認までは至らない部分が確かにあったかと思えます。

#### **副委員長**

これでは困ってしまうのでどれが正しい記述なのかなと思ってしまう。地域福祉課と高齢者支援課はこの記述でよろしいのか、行政が関わっている部分で認識不足であって、書かれている部分がなかったかどうかということです。

#### **事務局**

この件に関しましては今後、改めてアンケートを見返しまして、対象とする団体にご案内できる内容がありましたら、連絡先も頂いているところですので、事実確認をして適切な内容をご案内できればと考えております。ご意見ありがとうございます。

#### **◇閉 会**

#### **委員長**

本日は、大変お忙しい中ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。今後も、ご協力よろしくお願いいたします。

これをもちまして、令和元年度第2回松戸市地域福祉計画推進委員会を終了させていただきます。

以 上

<別紙 1 >

配付資料一覧

- ・ 次 第
- ・ 座席表
- ・ 名 簿
- ・ 避難行動要支援者名簿活用の手引き
- ・ 資料 1 「第 3 次松戸市地域福祉計画に関連する地域団体の取り組みの把握結果」
- ・ 資料 2 「地域福祉サロンの結果報告について」
- ・ 資料 3 「今後の業務予定について」